

ピーマン・シシトウのトンネル栽培における有望品種の選定

荒木俊光・田邊範子^a・沼尻勝人・海保富士男
(商品開発科)^a 現南多摩普及センター

【要約】 初期収量，総収量とも多く，下物の少ない品種は，ピーマンでは，‘京ゆたか，オールマイティー’が，シシトウでは，‘獅子みどり’であり，いずれも有望である。

【目的】

東京では，ピーマン，シシトウは，直売には欠かせない品目である。そこで，生育・収量を明らかにし有望な品種を選定する。

【方法】

供試品種は，ピーマンは‘エース’他7品種，シシトウは‘伏見甘長’他3品種である。128穴セルトレイに2月10日に播種し，3月14日に10.5cmポットに鉢上げした。

定植は4月28日に条間150cm，株間50cm(1,330株/10a)で行い，区制は1区6株の2連制とした。定植後から5月15日までタフベル(＃4000N)によるトンネル被覆を行った。基肥にはロング424と単肥を用いて，成分量(kg/10a)で窒素：24，リン酸：32，カリ：24を施用し，追肥は7月上旬から9月まで窒素：13，カリ：8を施用した。両サイドにマイカー線を張り放任とし，8月23日に中心部を間引き剪定して主枝を1株6本程度とした。

【成果の概要】

- 1) 6，7月の収量はピーマンでは，‘京ゆたか’が多く，次いで‘下総2号，京ひかり，はばたき2号’であった。上物収量では，‘京ゆたか’が多く次いで‘オールマイティー，下総2号，京ひかり，カナン’であった。シシトウでは，6，7月の初期収量，上物収量とも，‘獅子みどり’が多かった。伏見甘長は，全体的に曲がり果が多く上物収量は少なかった(図1)。
- 2) 1果重では，ベル型のエースが重く，‘カナン，オールマイティー’がそれに次いだ。シシトウでは，‘松の舞，甘とう美人’は，やや大型のシシトウで，1果重が重かった(図2)。
- 3) 下物は，変型(曲がり等)の割合が高かった。虫害の多くはカメムシによるもので，オオタバコガの被害もみられた。その他，10月中旬から，アントシアニン着色果が増え，特に，‘伏見甘長’が多かった。‘獅子みどり’は，変型果が少なく，食味も良く，栽培しやすい品種であった。
- 4) 以上の結果から，ピーマンは初期収量，総収量が多く，下物の少ない‘京ゆたか’，‘オールマイティー’が，シシトウは，同じく初期収量，総収量が多く下物の少ない‘獅子みどり’が有望な品種である。

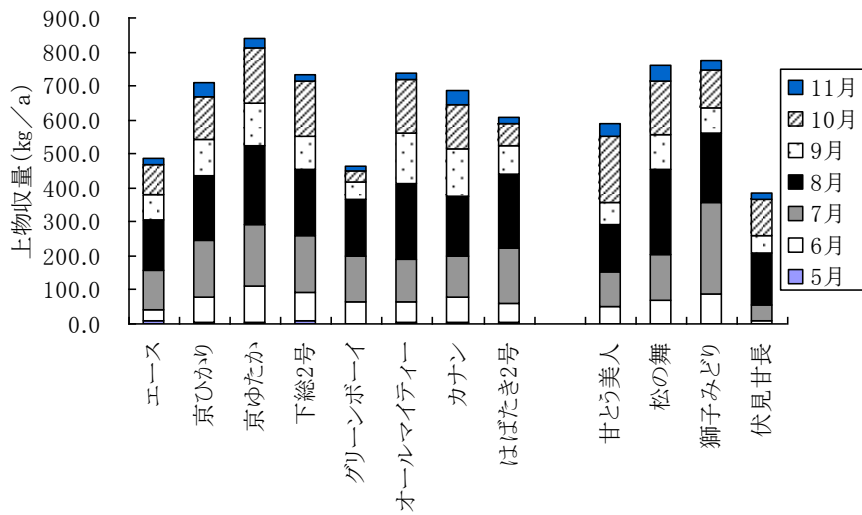


図1 ピーマン・シシトウの月別上物収量

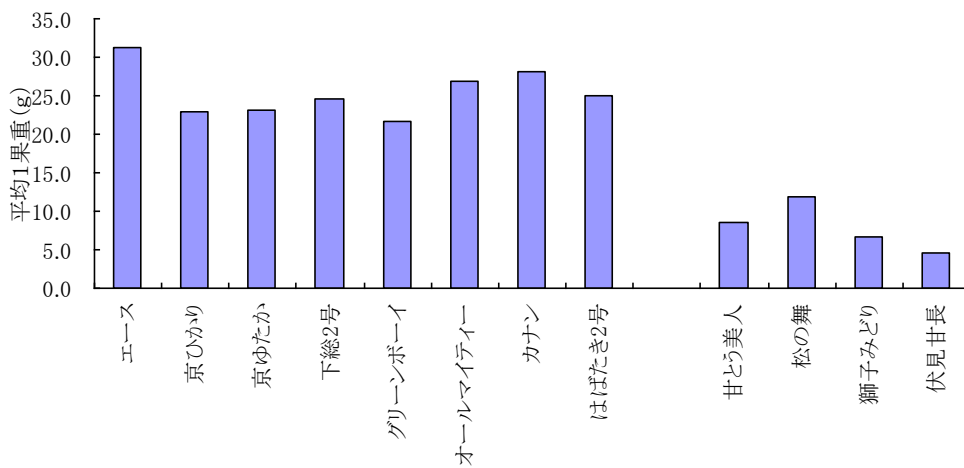


図2 ピーマン・シシトウの平均1果重

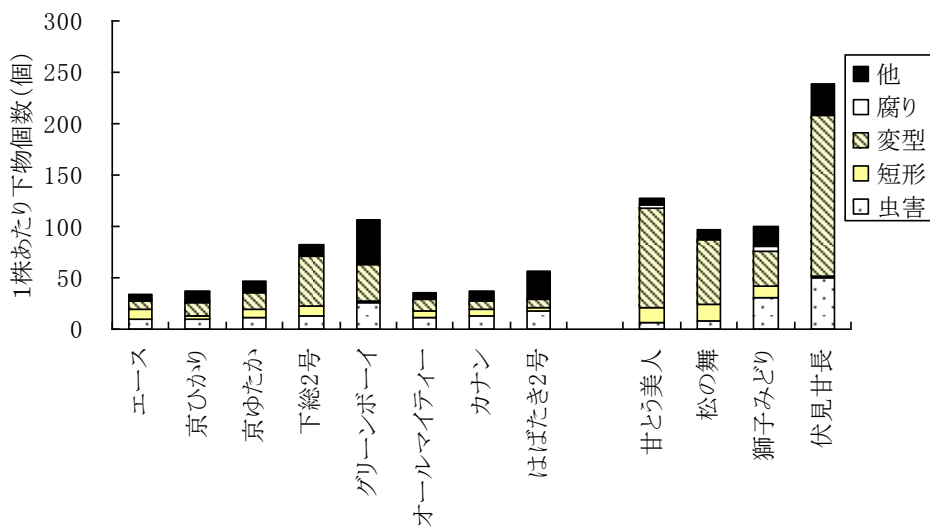


図3 各品種の下物内訳